

環境県民局 資 料	No. 2
--------------	-------

令和4年6月17日 課名 環境県民局わたらしい生き方応援課 担当者 課長 中山 内線 2733

令和3年度のエソール広島の活動状況の検証について

1 要旨・目的

エソール広島の令和3年度の活動状況について取りまとめを行い、その内容について検証する。

2 現状・背景

エソール広島の平成30年10月の移転を機に、エソール広島の更なる活性化のため、毎年度の上半期及び年間の施設の利用状況や事業の実施状況等を取りまとめ、検証することとした。

3 概要

(1) 対象者

県民

(2) 事業内容（実施内容）

別紙のとおり

(3) スケジュール（実施期間）

令和3年4月～令和4年3月

(4) 予算（国庫・単県）

—

(5) 事業効果・検証結果

別紙のとおり

エソール広島の活動状況の検証について

〔令和4年6月17日〕
わたらしい生き方応援課

エソール広島の令和3年度の活動状況について取りまとめを行い、その内容について検証する。

1 エソール広島の利用状況

(1) 利用者数

新型コロナウイルス感染拡大防止のため利用定員を通常の50%としたほか、利用自粛により新規利用申込みの受付や図書の貸出を停止するなどの対策を約5ヶ月実施したことにより利用者数は前年度と同程度であるが、オンラインによる講座を積極的に推進したため、前年度よりもさらにオンライン参加者が増加した。

区分		令和3年度 A (割合)	令和2年度 B (割合)	平成28年度	対前年比 A/B
利用者数		13,279人 (100.0%)	13,963人 (100.0%)	10,563人	95.1%
内 訳	研修室・交流スペース利用	11,723人 (88.3%)	11,310人 (81.0%)	—	103.7%
	図書の貸出しや情報収集等 での利用(フリースペース利用)	1,556人 (11.7%)	2,653人 (19.0%)	—	58.7%
(参考)外部施設で開催した財団主催又は共催の講座等の参加者数		3,223人	1,579人	—	204.1%

※ 利用自粛要請を行った期間

令和2年度：R2.4.1～5.17 (47日間)

令和3年度：R3.5.8～6.20, R3.7.31～9.30, R4.1.9～3.6 (163日間)

※ 研修室・交流スペース利用者数については、オンライン参加(5,122人)を含む。

(2) 研修室及び交流スペースの稼働率

① 全体の稼働率

令和3年度は約5か月間施設の利用自粛要請を行ったため、研修目的等での稼働率は67.1%と前年度を若干下回ったが、自粛要請期間を除くと前年度よりも約8.5ポイント上昇している。

区分	開館日数 A	研修目的等での利用日数 B	稼働率 B/A
令和3年度	359日 (196日)	241日 (166日)	67.1% (84.7%)
令和2年度	358日 (311日)	243日 (237日)	67.9% (76.2%)

※ ()内は、新型コロナ感染拡大防止のため利用自粛要請を行った期間(R2.4.1～5.17, R3.5.8～6.20, R3.7.31～9.30, R4.1.9～3.6)を除く。

② 研修室、交流スペース別の稼働率

「研修室（2室の平均）」の稼働率は32.5%で、前年度に比べて3.0ポイント上回った。これは、「平日」「昼間」の利用が4.1ポイント、「土日」「昼間」のポイントが6.0ポイント上がったことによるが、利用自粛要請期間が長かったことから、短期間の利用自粛要請期間外に従来の研修がまとめて行われたことも要因の一つにあると考えられる。

なお、「研修室」「交流スペース」共に、夜間より昼間の利用が多く、特に「土日」の「研修室」は5割の稼働率となった。

「研修室」の利用人数単位の稼働率は19.7%で、前年度に比べて1.3ポイント上回った。交流スペースは、前年度からほぼ横ばいで推移しているが、これは前年度に引き続き、定員の50%利用や少人数の利用が続いた影響が考えられる。

【研修室単位の稼働率】

区分	昼間						夜間		合計	令和 2年度
	平日			土日			平日	土日		
	午前	午後	計	午前	午後	計				
研修室	41.3%	46.9%	44.1%	45.3%	54.7%	50.0%	8.4%	0.0%	32.5%	29.5%
交流S	7.7%	16.8%	12.2%	28.3%	37.7%	33.0%	9.1%	1.9%	14.3%	11.7%

※ 利用自粛要請を行った期間（163日間）を除く（次の表において同じ）

【利用人数単位の稼働率】

区分	昼間						夜間		合計	令和 2年度
	平日			土日			平日	土日		
	午前	午後	計	午前	午後	計				
研修室	25.5%	27.2%	26.4%	33.4%	31.1%	32.2%	4.3%	0.0%	19.7%	18.4%
交流S	10.1%	15.1%	12.6%	19.2%	22.1%	20.7%	4.1%	0.6%	10.9%	10.3%

※ 利用人数単位の稼働率の算定に当たっては、利用実態を考慮して研修室1室当り30人、交流スペース1室当たり10人を標準値として算定している。

(3) 研修室及び交流スペースの利用状況の分析

① 団体区分別・利用形態別の利用人数

団体区分別で見ると、行政が3,994人(34.1%)で最も多いが、企業・NPO等や女性団体も3,000人を超えており、目立った偏りはない。利用形態としては、講座・研修での利用が最も多く7,881人(67.2%)となっている。

なお、行政や女性団体の主催事業においては、オンラインによる参加が増加傾向にあり、利用者数が前年度を上回ったが、財団主催事業については企業からの受託事業の減少により、前年度を下回った。

区 分	令和3年度	(利用形態)			令和2年度	対前年比
	[団体別割合] (利用形態割合)	講座・研修	交流会	会議・打合せ		
女性団体	3,161人 [27.0%] (100.0%)	2,280人 (72.1%)	199人 (6.3%)	682人 (21.6%)	1,394人	226.8%
企業・NPO等	3,443人 [29.4%] (100.0%)	2,159人 (62.7%)	515人 (15.0%)	769人 (22.3%)	5,770人	59.7%
行政	3,994人 [34.1%] (100.0%)	2,559人 (64.1%)	21人 (0.5%)	1,414人 (35.4%)	2,200人	181.5%
男女共同参画 財団(主催事業)	1,125人 [9.6%] (100%)	883人 (78.5%)	143人 (12.7%)	99人 (8.8%)	1,946人	57.8%
合 計	11,723人 [100.0%] (100.0%)	7,881人 (67.2%)	878人 (7.5%)	2,964人 (25.3%)	11,310人	103.7%

② 利用回数区分別の利用状況

3回以上利用している団体は43団体で全体(97団体)の44.3%を占め、これを利用人数で見ると8,863人で、利用総数(11,723人)の75.6%となっている。

また、利用実態としては、起業支援や子育て支援、就業支援などの連続講座の開催などで、利用している団体がみられる。

(単位：団体)

区 分	令和3年度	(団体区分)			令和2年度
		女性団体	企業・NPO等	行政	
10回以上	8	3	3	2	8
5～9回	14	6	6	2	15
3～4回	21	7	12	2	14
3回以上計	43	16	21	6	37
全利用団体数	97	35	40	22	104
3回以上の比率	44.3%	45.7%	52.5%	27.3%	35.6%

区 分	令和3年度	(利用形態)			令和2年度	対前年比
		講座・研修	交流会	会議・打合せ		
3回以上利用している団体の利用人数	8,863人	5,885人	559人	2,419人	6,398人	138.5%

③ 月別の利用状況

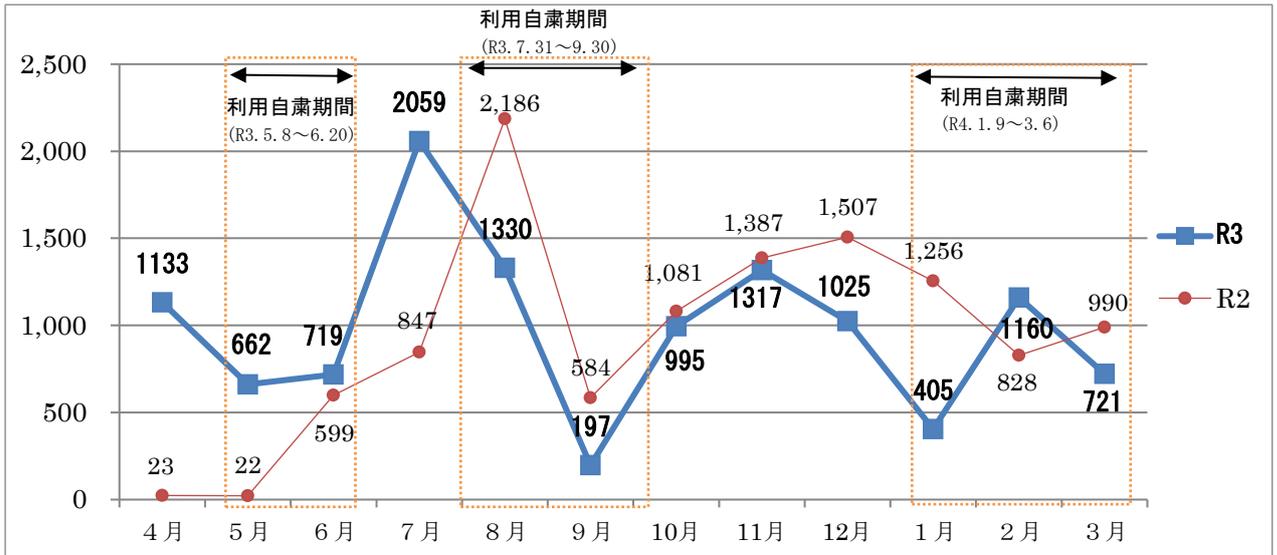
5月～6月及び8月～9月、1月～3月にかけては緊急事態宣言期間中に利用自粛要請を行った影響により利用者が落ち込んでいる。

また、1年を通じて利用定員を通常の50%としたため利用者数は低迷している。

長期の利用自粛期間が複数回あったことから、それ以外の期間においても、利用者数が回復せず、月平均では約千人に留まった。

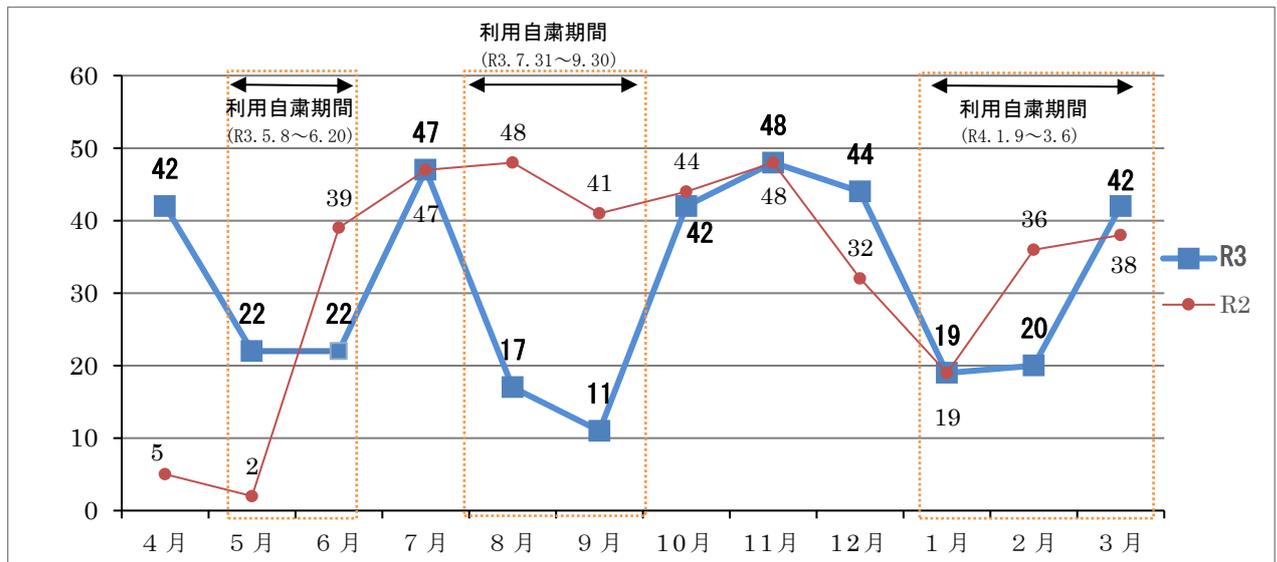
【利用者数（月別）】

（単位：人）



【利用件数（月別）】

（単位：件）



④ 平日・土日別の利用状況

利用人数の最も多い時間帯は、平日・昼間の7,708人(65.8%)で、次いで土日・昼間の3,223人(27.5%)だった。

利用形態としては、平日・土日とも「講座・研修」が多く、次いで会議・打合せが多い。

団体区分では平日は「行政」、土日は「女性団体」の利用が最も多く、平日・土日とも次いで「企業・NPO等」が多い。

夜間については、令和元年度から開館時間を9:30～21:00に拡大しているが、令和2年度より夜間の外出自粛要請により利用時間を20時までとしているため、土日・夜間の利用が引き続き減少している。

※ 開館時間9:30～18:00をH31年度から9:30～21:00へ拡大

【利用形態別の利用人数】

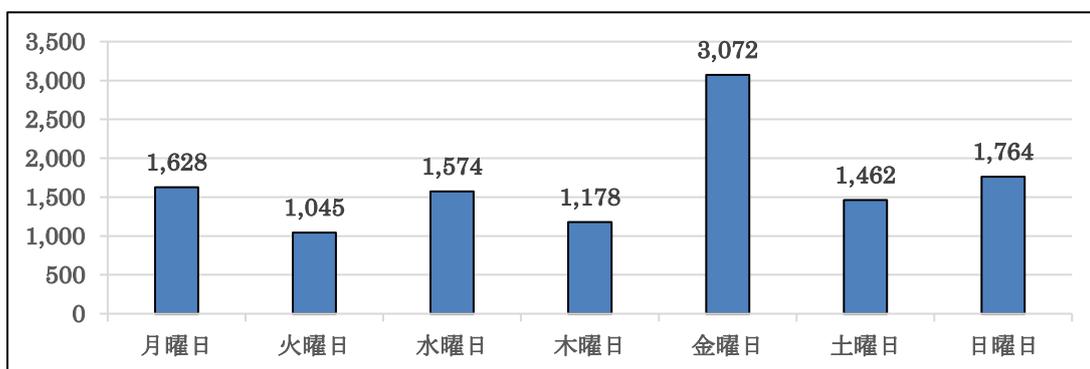
区 分		令和3年度 (割合)			令和2年度			対前年比
		(利用形態)						
		講座・研修	交流会	会議・打合せ				
平日	昼間	7,708人 (65.8%)	5,064人 (43.2%)	314人 (2.7%)	2,330人 (19.9%)	6,626人	116.3%	
	夜間	789人 (6.7%)	563人 (4.8%)	85人 (0.7%)	141人 (1.2%)	641人	123.1%	
土日	昼間	3,223人 (27.5%)	2,429人 (20.7%)	307人 (2.6%)	487人 (4.2%)	3,918人	82.3%	
	夜間	3人 (0.0%)	3人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	125人	2.4%	
合 計		11,723人 (100.0%)	8,059人 (68.7%)	706人 (6.0%)	2,958人 (25.2%)	11,310人	103.7%	

【団体区分別の利用人数】

区 分		令和3年度 (割合)				
		(団体区分)				
		女性団体	企業・NPO等	行政	男女共同参画財団 (主催事業)	
平日	昼間	7,708人 (65.8%)	1,544人 (13.2%)	2,346人 (20.0%)	3,491人 (29.8%)	327人 (2.8%)
	夜間	789人 (6.7%)	63人 (0.5%)	406人 (3.5%)	320人 (2.7%)	0人 (0.0%)
土日	昼間	3,223人 (27.5%)	1,554人 (13.3%)	688人 (5.9%)	183人 (1.6%)	798人 (6.8%)
	夜間	3人 (0.0%)	0人 (0.0%)	3人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
合 計		11,723人 (100.0%)	3,161人 (27.0%)	3,443人 (29.4%)	3,994人 (34.1%)	1,125人 (9.6%)

⑤ 曜日別の利用状況

金曜日は、利用者数が3,000人を上回った一方で、他の曜日は1,000人台だった。
(単位：人)



(4) 登録団体の利用状況

利用促進の広報に力を入れたため、男女共同参画の推進を目的としてエソール広島を利用して活動する団体を新たに18団体登録し、令和4年3月末現在で70団体となった。

① 登録団体の状況

区分	団体数 (新規)
公益社団・財団法人	5 団体 (2 団体)
一般社団・財団法人	10 団体 (2 団体)
NPO 法人	10 団体 (3 団体)
その他任意団体等	45 団体 (11 団体)
計	70 団体 (18 団体)

② 所在市町別の状況

区分	団体数 (新規)
広島市	63 団体 (17 団体)
広島市以外*	7 団体 (1 団体)
計	70 団体 (18 団体)

*竹原市，府中市，東広島市，廿日市市，府中町，坂町，神奈川県（各1団体）

③ 登録団体の利用状況

区分	件数
職場等における女性活躍の支援 ・キャリアアップ支援 等	102 件
家庭における男女共同参画の促進 ・子育て支援 等	1 件
地域社会活動における男女共同参画の促進 ・地域における女性活動の支援 等	16 件
その他 ・ひとり親支援，健康支援 等	12 件
計	131 件

(5) 施設利用の評価

新型コロナウイルス感染拡大防止のための計約5か月間の利用自粛要請や利用定員の50%削減、夜間の利用時間短縮などから、利用者数合計は令和2年度を若干下回ったものの、オンラインによる講座等を積極的に推進したことでの行政や女性団体の主催事業の利用者は増加した。

一方で、アフターコロナを見据えながら、男女共同参画の拠点として、立地環境の優位性を活かして更なる利用拡大を図る必要があると、次の点に取り組む必要があると考えられる。

- ① 対面型とオンライン型の併用等により利用を一層拡大するとともに、企業・NPO等との連携や交流に繋げるための仕掛けにより利用を拡大すること
- ② 夜間については、働く方を対象とした交流会や勉強会等の利用を促進することにより、研修室等の稼働率を引き上げること
- ③ 引き続き、登録団体の数を増やしていくとともに、財団の自主事業や共催事業の情報発信等の連携した取組を進めていくこと

(6) 今後の取組

新型コロナウイルス感染防止を日常生活に取り入れた「新しい生活様式」に対応しつつ、アフターコロナを見据えたうえで、次の取組によって利用拡大を図る。

- ① リモートワークやウェビナー（インターネット上で行われるセミナー）等が日常的に取り入れられる社会生活に対応し、オンラインによる利用を現在の5,122人から更なる増加を目指す。
- ② 平日夜間の利用については、様々な業種で働く女性の交流会や勉強会等の利用を引き続き拡大していくよう利用促進活動を行うとともに、研修室全体の稼働率を引き上げることを目指す。
- ③ 財団と連携して取組を行っていく登録団体数を100団体とすることを目標に、未登録の団体へ積極的に働きかけを行っていくとともに、そういった団体を通じて、利用の周知を図り、利用拡大につなげていく。

以上のような施設の稼働を向上させる取組を推進していくことにより、利用者数の増加を目指す。

また、企業・NPO等と連携して、今日的テーマについて意見交換や交流の機会を設けるなどして、自主的・自律的で活発な活動や交流を広げ、県内全域の男女共同参画の施設としての拠点性を高めていく。

2 男女共同参画に関する事業の実施状況

令和3年度は集合や移動の制限などがあったが、オンライン講座を積極的に取り入れたことやWeb中継により市町で受講できる講座を実施したことで、参加者の維持・拡大を図れたほか、高校への出前講座をきっかけに、高校生がジェンダー平等について学んだことを学内外で発表するなどの事業の広がりが見られた。

また、コロナ禍が生活にどのような影響を及ぼしているのかを把握するため、令和2年度に引き続き、アンケート調査を実施した。その結果から浮かび上がってきた課題から、コロナ禍で女性が直面している厳しい現実について考える公開講座を開催したほか、長期化するコロナ禍で悩みを相談できず孤立を深めるなど様々な困難を抱える方が取り残されることのないよう、専門家による緊急相談会等を行った。

さらに、「わたらしい生き方応援プランひろしま」を踏まえ、これまで利用の少なかった若い世代を対象に、性別に関する固定観念に影響されることなく自分らしい選択ができるために何が必要かを考える課題解決型のワークショップや、社会で活躍する人との交流会を開始した。

このほか、相談事業において特に若い者からの相談が増加傾向にあるLGBTをテーマに、保有する図書を有効活用しながら、来館者に学んでもらえるようビブリオバトル（読書会・勉強会）を前年度に引き続き開催した。

(1) 研修・交流事業の企画実施

① 職場・家庭等における男女共同参画の推進

- ・SDGsを正しく理解し職場や地域で実践するための基礎知識を学ぶ講座
- ・コロナ禍で明らかになった女性の就業問題についての講座
- ・大学生や若い社会人を対象とした、性別にかかわらず自分らしい生き方を選択するためのワークショップや交流会
- ・働く女性のうち、創業を検討する方や創業間もない方を対象に、オンラインを利用したセミナー
- ・子育て中の女性の心と体を支援するための講座とワークショップ

区分	事業数（回数）		参加者数（人）		
	令和3年度	令和2年度	令和3年度	令和2年度	対前年比
財団主催事業	18	35	659	1,659	39.7%
（うち企業等からの受託）	(10)	(17)	(472)	(613)	(77.0%)
共催事業	29	30	809	873	92.7%
計	47	65	1,468	2,532	58.0%

※ 個別の事業の詳細については別紙参考のとおり（以下、②～④において同じ。）。

② 様々な困難や生きづらさの解消と安心づくりのための支援

- ・ コロナ禍で複雑多様化する相談に対応するための相談員養成講座
- ・ コロナ禍で様々な困難を抱える方を対象とした専門家による緊急相談会
- ・ 女性に対する暴力や家庭内で生じやすい問題への理解を深め、困難や生きづらさを抱えている方々の解消につながるような講座や共催事業

区 分	事業数 (回数)		参加者数 (人)		
	令和3年度	令和2年度	令和3年度	令和2年度	対前年比
財団主催事業	22	12	895	645	138.8%
(うち企業等からの受託)	(4)	(6)	(206)	(400)	(31.5%)
共催事業	2	2	42	50	84.0%
計	24	14	937	695	134.8%

③ LGBTに関する啓発活動

- ・ 性的マイノリティの方々への理解を深め、性の多様性を理解・尊重することの大切さを学ぶための講座やワークショップ

区 分	事業数 (回数)		参加者数 (人)		
	令和3年度	令和2年度	令和3年度	令和2年度	対前年比
財団主催事業	11	8	1,217	499	243.9%
(うち企業等からの受託)	(8)	(3)	(1,063)	(270)	(393.7%)
共催事業	0	0	0	0	0%
計	11	8	1,217	499	243.9%

④ その他

- ・ 広島県の女性議員から、女性の政治参画について学び、キャリア形成のヒントや選択肢を考えるパネルディスカッション
- ・ LGBTやジェンダー平等、女性の働き方など学生のうちに知っておいてほしい様々な男女共同参画のテーマでの高校への出前講座

区 分	事業数 (回数)		参加者数 (人)		
	令和3年度	令和2年度	令和3年度	令和2年度	対前年比
財団主催事業	10	10	1,576	659	239.2%
(うち企業等からの受託)	(1)	-	(14)	-	皆増
共催事業	5	-	541	-	皆増
計	15	10	2,117	659	321.2%

⑤ 事業の評価

財団が主催する研修事業や交流事業の参加者アンケート結果の満足度は80%を超えるなど高い評価を得ているが、一部の事業は定員に満たないものもある。そのため、エソール広島を利用している団体の活動内容や相談事業の分析等によって、ニーズに合致したテーマを選定するとともに、オンライン配信や地元の市町で受講できるWeb中継等により、受講者増に取り組む必要があると考えている。

一方で、コロナ禍の影響アンケート調査の結果や相談窓口に寄せられる内容から、複雑多様化する相談に対応するための相談員育成研修や、専門家による緊急相談会などを行っており、今後ますます複雑多様化するニーズに対応できるよう事業に反映させていく必要がある。

また、これまで利用の少なかった大学生や若い社会人を対象に令和3年度開始した課題解決型のワークショップの取組では、出前講座を受講した高校生の参加のほか、地域や企業で活躍する先輩方の応援参加も得られたところであり、引き続き、性別や年齢等に関わりなく、多様な分野で活躍している個人や団体が交流・意見交換し、自主的・自律的で活発な活動を行う拠点となることを目指し、取り組む必要がある。

⑥ 今後の取組

長期化するコロナ禍における問題に対する啓発や講座、また、相談件数が増加しているLGBTについては高校への出前講座の強化など、社会情勢の変化を踏まえ、ニーズに合致したテーマを選定し、理解の促進を図るとともに、Webを活用した公開講座等により参加者を拡大させる。

また、ワークショップ事業などに引き続き取り組むことにより、継続して参加し、自主的に事業に関わる人の確保に努めるとともに、県内全域から集まりやすい立地などを生かし、地域や社会で活動する人や若い世代に企画の段階から関与してもらうほか、NPOや企業等の団体や個人と連携するなどにより、エソール広島がサポート機能を高め、コーディネートを行うことで、主体的な活動の活発化につなげていけるよう取り組む。

(2) 相談事業

① 一般相談

家族や職場における人間関係などに関する悩みに対して、電話相談は週5日（水曜日、日曜日、休日以外の日）実施し、その中でも複雑な悩みを抱えた案件などについては、面接相談（原則として毎週金曜日）に移行している。電話相談と面接相談を合わせると、1,934件の相談が寄せられ、前年度とほぼ同程度の相談が寄せられている。

ア 相談件数

区分	電話相談	面接相談	計	対前年比
令和3年度	1,833件	101件	1,934件	93.3%
令和2年度	1,933件	140件	2,073件	—

イ 相談内容

相談内容	令和3年度	令和2年度	対前年比
家族（夫婦，子ども，親等）に関すること （離婚，夫婦間のDV，子どもの教育，親の世話など）	764件 (39.5%)	876件 (42.3%)	87.2%
男女間や職場の人間関係など対人に関すること （男女・隣人・友人・職場等対人関係におけるトラブルなど）	514件 (26.6%)	471件 (22.7%)	109.1%
健康，孤独などの人生における不安や悩みに関すること （病気を抱える辛さや不安，今後の生き方など）	525件 (27.1%)	601件 (29.0%)	87.4%
その他 （法律や福祉など様々な情報の収集など）	131件 (6.8%)	125件 (6.0%)	104.8%
計	1,934件 (100.0%)	2,073件 (100.0%)	93.3%

ウ 相談者の年代

区分	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	不明	計
令和3年度	54件 (2.8%)	156件 (8.1%)	371件 (19.2%)	587件 (30.4%)	526件 (27.2%)	215件 (11.1%)	25件 (1.3%)	1,934件 (100.0%)
令和2年度	80件 (3.9%)	202件 (9.7%)	503件 (24.3%)	485件 (23.4%)	551件 (26.6%)	198件 (9.6%)	54件 (2.6%)	2,073件 (100.0%)

エ 相談者の地域別件数

○ 電話

地域	相談件数	内訳
広島市	1,256件 (68.5%)	
広島市以外	539件 (29.4%)	呉市19，三原市4，尾道市2，福山市47， 府中市4，三次市3，庄原市1，大竹市1，東 広島市42，廿日市市15，安芸高田市3，江田 島市1，府中町1，海田町5，坂町2，北広島 町1，世羅町1，神石高原町1，不明386
県外・不明	38件 (2.1%)	
計	1,833件 (100.0%)	

○ 面接

地域	相談件数	内訳
広島市	72件 (71.3%)	
広島市以外	28件 (27.7%)	尾道市1，府中市3，三次市3，大竹市1，東 広島市6，廿日市市8，江田島市1，府中町2， 坂町2，北広島町1
県外	1件 (1.0%)	
計	101件 (100.0%)	

オ 専門機関との連携

喫緊に対応する必要がある深刻な内容の相談については、事案に応じて、警察や病院などの専門機関につないでいる。

専門機関	令和3年度	令和2年度	主な事例
警察	5件	5件	ストーカーやDV被害
病院等	19件	14件	ストレス等による心身の不調
行政機関（こども家庭センター等）	37件	45件	DV, 性被害
弁護士, 家庭裁判所等	43件	30件	離婚, 相続
民間施設	5件	13件	法律に基づく事務手続き
計	109件	107件	

② LGBT 相談

LGBT相談は平成29年10月から開設しており、開設当初は月1回の実施であったが、平成30年6月からは毎週土曜日を相談日として窓口を開いている。

相談件数は、前年度比118.8%と増加傾向にあり、30歳代までの若い世代からの相談が、全体の約6割を占めるなど、一般相談（約10%）と比較すると、非常に多い傾向にある。

ア 相談件数

区分	電話相談	面接相談	計	対前年比
令和3年度	234件	0件	234件	118.8%
令和2年度	196件	1件	197件	—

イ 相談者の年代

区分	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上	不明	計
令和3年度	15件 (6.4%)	51件 (21.8%)	72件 (30.8%)	16件 (6.8%)	12件 (5.1%)	57件 (24.4%)	11件 (4.7%)	234件 (100.0%)
令和2年度	14件 (7.1%)	37件 (18.8%)	71件 (36.0%)	4件 (2.0%)	2件 (1.0%)	63件 (32.0%)	6件 (3.0%)	197件 (100.0%)

ウ 相談者の地域別件数

地域	相談件数	内訳
広島市	62件 (26.5%)	
広島市以外	87件 (37.2%)	呉市1, 三原市1, 尾道市32, 東広島市12, 廿日市市16, 北広島町1, 不明24
県外・不明	85件 (36.3%)	
計	234件 (100.0%)	

エ 専門機関との連携

専門機関による支援が必要な内容の相談については、病院や行政機関につないでいる。

専門機関	令和3年度	令和2年度	主な事例
病院	11件	4件	性別違和、性別適合手術に関する悩み
民間支援団体	14件	10件	自分の性がわからない
計	25件	14件	

③ 事業の評価

令和3年度の一般相談（電話・面接）は前年度からは微減したが、年間2,000件程度の相談に対応しており、内容では「家族に関すること」が最も多く39.5%を占めている。

LGBT相談については、相談窓口を開設した平成29年度以降、毎年度増加している。相談のうち、様々な課題が絡み合った複合的なものや深刻なものについては、こども家庭センターや医療機関等の専門機関につなげ、一人ひとりに寄り添った支援を行っており、寄せられる声から、相談者の悩みや課題の解決に一定の成果を上げていると言える。

④ 今後の取組

窓口寄せられる相談には、様々な課題が絡み合った複合的なものや、相談者自身が悩みの本質に気付いていない場合もあるため、相談のファーストコンタクトの窓口として、必要に応じて丁寧な面談を行った上で、専門機関の紹介や同行を行うなど、引き続き、一人ひとりに寄り添った支援を行う。

また、今後は、相談内容の詳細な分析を行うことで、社会情勢等の影響を受け困難な状況に陥っている方の実情の一層の把握に努めるとともに、把握した課題を関係支援機関などと共有し、困難を抱える方が支援の狭間で取り残されることのないよう必要な支援策の検討や実施につなげていく。

(3) 情報の収集及び提供

① ホームページ等の活用や文献情報などによる情報発信・提供

相談が増加するとともに研修受託事業で関心の高まっているLGBTをテーマに、来館者に理解を深めてもらうため、情報スペースの図書を有効活用したビブリオバトル（読書会・勉強会）を前年度に引き続き開催した。

また、コロナ禍により様々な状況下で困難を抱えた方々の一助となるよう、DV相談、生活困窮に係る相談、子育てや教育に係る相談など、国をはじめとした行政機関が設置した相談窓口や生活上の困りごとに対応する各種情報などについて、県民が一元的に情報収集できるサイトをホームページに掲載している。

行政資料や新規書籍を定期的に収集・追加し、その情報をSNS等を活用して発信している。

② 事業の評価

ホームページをはじめ、SNS やメールマガジンの配信など Web を活用し、内閣府の定める啓発週間に係る周知、統計的な情報の提供を行うとともに、広島県の女性活躍関係情報の周知等にも取り組んでいる。特に若い世代の利用率の高いインスタグラムを本格的に活用し、発信力の強化を図ることとした。

エソール広島の拠点性を向上させるためには、取組が一層効果的なものになるよう、男女共同参画に関する活動を行っている団体・個人間の交流を促進させることが重要である。

また、各種団体の情報を財団が把握して提供できるようデータを整備する必要がある。

③ 今後の取組

内閣府や県の発信する各種統計情報をホームページや SNS 等に掲載し、県民への継続的な情報提供を実施していくなど、男女共同参画の促進に資する情報発信の内容を充実させていく。

また、男女共同参画に関する活動を行っている団体情報や人材情報をデータベース化し、他の団体等に紹介するなどして、これらの団体等の活動の活発化を図る。

さらに、エソール広島の拠点性を向上させるとともに、性別や年齢に関わりなく誰もが活躍できる環境づくりのため、社会情勢を踏まえた今日的なテーマについての情報発信を行い、活発な活動や交流を促進する。

3 県としての検証の総括について

令和3年度もコロナ禍における施設の利用自粛などの制約が長期化する中での活動だったが、オンライン配信や Web 中継の活用によって利用者の広がりが見られることから、引き続きこの取組を強化するとともに、アフターコロナを見据え立地環境の優位性を活かしながら、さらなる認知度向上や利用拡大を図っていく必要がある。

また、コロナ禍アンケート等により、悩みを相談できず孤立を深めるなどの様々な困難を抱える方の状況が浮かび上がってきたことから、専門家による緊急相談会を実施しており、支援機関の狭間で取り残されることがないように引き続き専門家と連携した相談対応を行うほか、一層の適切な支援につなげるため、支援員のスキルアップを図るとともに支援者同士が課題を共有し、支援の検討等につなげていく必要がある。

さらに「わたらしい生き方応援プランひろしま」に基づき、性別に関わらず自分らしい暮らし方の実現に向けて、若い世代を対象としたワークショップを開始したところであり、引き続き、個人や団体が出会い、学び、情報収集し、ネットワークができる場としてエソール広島が活用され、自主的・自律的な活動や交流が広がっていくよう取り組む必要がある。

今後も、財団が実施する研修や交流事業、情報収集・提供等の事業について、社会情勢の変化や相談の内容等を踏まえながら、内容を充実させるとともに、毎年度、施設の利用状況や事業の実施状況等を検証していく必要があると考えている。

(1) 職場・家庭等における男女共同参画の推進のための主な事業

① 財団主催事業

エソール つながる トークリ レー 【前年度 から継続 実施】	目的	コロナ禍等により、様々な社会的課題で悩んでいる方々に対して、これから生きていく上での考え方や参考になる情報などを提供することにより、悩みの解消などにつながることを目的とする。
	対象	全般
エソール ひろしま 大学 オンライ ン公開講 座 SDG s ス タディー ズ	目的	男女共同参画の推進のため、SDGs のジェンダー平等や LGBT 等について認識し考えてもらうことを目的とする。
	参加者数	61 人 (内訳) 広島市 28 人、呉市 1 人、竹原市 1 人、三原市 2 人、尾道市 1 人、福山市 1 人、府中市 1 人、東広島市 7 人、廿日市市 3 人、安芸高田市 1 人、大崎上島町 15 人
エソール ひろしま 大学	内容	・「SDGs スタディーズ～正しく理解し職場や地域で実践するために～」というテーマでの専門家による公開講座
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：80.0% 受講者の声：「SDGs に関する「正しい」理解を深めることの必要性と、自分にできることが何かを考えるきっかけになった。」 「SDGs の目標達成までの日本の立ち位置を知ることができ、ジェンダー関連のことが遅れていることが分かった。広島県の現状も知れて、とても興味深い内容だった。」
エソール ひろしま 大学	目的	男女共同参画の推進のため、困難・不確実性が拡大する時代に、自主性・自立性を持ち、柔軟に考え、生き抜く力を身に付けた人材の養成を目的とする。
	対象	全般
	参加者数	103 人（うち Zoom による参加者 68 人） 〔内訳〕広島市 55 人、三原市 14 人、尾道市 1 人、府中市 1 人、府中町 7 人、大崎上島町 13 人、県外 12 人
	内容	・職場や地域で実践するための SDG s 活用指針と事例分析や、コロナ禍で明らかになった女性の就業問題についてなどをテーマに、SDG s の理解のもと一人ひとりの職場や地域で、社会貢献、地域活動を目指す人を育成するための講座 ・6 回連続講座
受講生の評価	アンケート調査結果 「多様な方が、参加され、励まされ、背中を押され、柔軟な考え方を示唆してもらった。物事への取り組み方、多様な側面からのアプローチを教わった。講義だけでなく、グループワークも同様に多くの学びがあった。」	

	「新たな発見が多くあった。SDGsを考えるうえで、どのように考えていくべきか、自身が何をしていくべきか考える機会となった。」「人と話すことや、教えたりする機会が多く、各テーマとも人に伝えたいことばかりだった。今回のような講義はずっと続けてほしい。」
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

② 企業等からの受託研修事業

内容	委託者（数）	回数	参加者
ワークライフバランス	行政（1）	1回	動画配信
コミュニケーションスキルの向上	企業等（1）	1回	130人
新入社員研修	企業等（1）	1回	25人
ハラスメント	企業等（1）	1回	25人
計	行政（1）、企業等（3）	4回	180人

性別に係る固定的役割意識の解消に向けた啓発事業（ワークショップ事業）	目的	固定的な性別役割分担意識に関する考え方や課題などについて意見交換し、その内容を参加者が相互に共有するとともに、広く県民に波及させるために効果的な手法で積極的に情報発信する。
	対象	大学生や30歳代くらいまでの社会人など
	参加者数	46人 （内訳）第1回：9月21日、24人、第2回：10月1日、22人
	内容	様々なライフイベントを迎える前の若い世代を対象に、固定観念についての考え方や課題を意見交換し、解決策を検討するなどを内容とした、ワークショップ形式による参加型の啓発事業
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：87.5% 受講者の声：「ワークショップを通して、若い世代の学生や社会人は「らしさ」の押し付けや性別役割についてアンテナを張っており、それを敏感に察知して、少なからず生きづらさを感じていることが心に残った。」「女性らしいや男性的だからと思わず、自分のやりたいことを貫くことが大切なように感じた。」
わたらしい生き方を選択するためのワークショップ事業（交流会）	目的	固定的な性別役割分担意識に関する考え方や課題などについて意見交換し、その内容を参加者が相互に共有するとともに、広く県民に波及させるために、効果的な手法で積極的に情報発信する。
	対象	大学生や30歳代くらいまでの社会人など
	参加者数	79人 （内訳）第1回：12月22日、15人、第2回：1月30日、14人、第3回：2月19日、38人、第4回：3月14日、12人）
	内容	9月と10月に実施したワークショップの参加者を基本的な対象者とし、参加者から出された意見をもとにテーマを選定し、テーマごとに関連する分野のゲストスピーカーとの交流会を開催。
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度88.2% 受講者の声：「自分が知らなかった社会の現状を知れたと同時に、企業の方々の意見も直接聞くことができ疑問に思ったこと

	を解消できた。」「日頃ジェンダーについて話す機会がないので様々な方の意見を聞くことができよかった。」「様々なバックグラウンドを持った方々の意見を聞くことができとても楽しかった。」
--	-------------------------------------------------------------------------------------------

③ 共催事業

内容	主催者（数）	回数	参加者
集客につながるオンライン& SNS 活用セミナー 2021	企業等（2）	3回	225人
ハラスメント	行政（1）	2回	92人
学生の描く理想の会社	企業等（1）	1回	76人
女性経営者のトークライブ	企業等（1）	1回	30人
子育て中の女性への支援	企業等（1）	21回	291人
計	行政（1）、企業等（5）	28回	714人

（2）様々な困難や生きづらさの解消と安心づくりのための支援に係る事業

① 財団主催事業

公開講座 「コロナ禍と女性の自死」	目的	複雑多様化する相談に対応するために、男女共同参画の視点を持った相談員を養成することを目的とする。
	対象	相談業務や対人援助に携わっている方、テーマに関心のある方
	参加者数	101人（うちZoomによる参加者52人） 〔内訳〕広島市83人、呉市1人、竹原市1人、三原市1人、福山市2人、庄原市1人、廿日市市5人、江田島市1人、安芸太田町1人、北広島町1人、不明5人
	内容	・コロナ禍で女性が直面している厳しい現実について、資料を元に背景を知り、支援について考える。
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：85.0% 受講者の声：「コロナ禍の中で女性の抱える問題が根底にあること、その解決は容易ではないと改めて感じた。」 「地域共生社会の実現が、弱い立場の女性を支えるということを変更して教えていただいた。」 「統計資料をもとに女性が自死に至る背景を知ることができ、日頃相談業務をしている者として、より関心高く、また身近でできることがあることを学ばせていただいた。」
メンタルサポーター養成講座（前年延期分）	目的	複雑多様化する相談に対応するために、男女共同参画の視点を持った相談員を養成することを目的とする。
	対象	相談業務や対人援助に携わっている方
	参加者数	28人 〔内訳〕広島市20人、尾道市2人、東広島市2人、海田町2人、安芸太田町2人
	内容	・家族の変容、子どもの諸課題、DVと児童虐待等をテーマにした講座と演習※7回連続講座のうち、前年度からの延期分2回（4月実施）

	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：満足度 81.3% 受講者の声：「男女共同参画という背景を踏まえての講義内容に改めて学びの機会をいただいた。」「DV, 児童虐待, メディアで日々事件として取り上げられているが, その方たちの背景にあるものを感じ取ることができた。」「リモートで受講できたらいいなと思う。」
メンタルサポーター養成講座（基礎編）	目的	複雑多様化する相談に対応するために, 男女共同参画の視点を持った相談員を養成することを目的とする。
	対象	相談業務や対人援助に携わっている方
	参加者数	64人 〔内訳〕広島市47人, 三原市5人, 福山市3人, 庄原市3人, 廿日市市3人, 熊野町3人
	内容	・「相手と係る」ための土台をロールプレイで学び, 傾聴する技法を学ぶ講座 ・3回連続講座
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：満足度 94.4% 受講者の声：「聴き方を学ぶ貴重な機会となり, 自身の仕事に活かせる講座だと思った。」「ロールプレイを通して多くの技法を学べた。」「マナー化している自分の相談活動を振り返ることができた。」「基礎からわかりやすく教えてくれた。」
メンタルサポーター養成講座（養成編）	目的	複雑多様化する相談に対応するために, 男女共同参画の視点を持った相談員を養成することを目的とする。
	対象	相談業務や対人援助に携わっている方
	参加者数	212人 〔内訳〕広島市158人, 福山市6人, 庄原市8人, 廿日市4人, 安芸高田市34人, 居住地不明2人
	内容	・子どもの諸課題, コロナ禍であらわになる女性の苦境, 夫婦・家族に対する支援等をテーマにした講座と演習※7回連続講座のうち, 第7回は令和4年度に延期(4月実施)
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：満足度 100% 受講者の声：「電話相談員をしており, 相談の内容は多岐にわたっている。様々な角度からの講義はとてありがたかった。」「子育て支援の方に携わっているので, 子どもの発達や問題についてお話を聞けて良かった。」「専門的な考え方や, 対応を少しでも先生方の目線から学ぶことができるとてもよかった。」

② 共催事業

内容	主催者（数）	回数	参加者
女性の権利	企業等（1）	1回	5人
多様性への理解	企業等（1）	1回	37人

③ 企業等からの受託研修事業

内容	委託者（数）	回数	参加者
男女共同参画の推進	大学(1), 行政(1)	3回	81人
青少年問題研究	企業等（1）	1回	45人

(3) LGBTに関する啓発活動のための主な事業

① 財団主催等

LGBT 関連図書ビブリオバトル	目的	情報スペースの図書を有効活用し、来館者が学ぶことを目的とした読書会・勉強会を実施することで、新たな来館者を増やし、エソール広島の認知度を高めることを目的とする。
	対象	全般
	参加者数	14人 〔内訳〕広島市14人
	内容	バトラー4名が選んだLGBT関連の本のプレゼンを行う。
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：満足度 90% 受講者の声：「若い世代の人がLGBTについてどう考えているか知ることができた。」「大学生世代の方の意見が聞けて、参考になった。」「興味深い本を紹介してもらった。」「ビブリオバトルを継続してほしい。」
LGBT スタディーズ	目的	ジェンダー、セクシュアリティについて深く正しく学び、その知識を周りの人に伝授することを目的とする。
	対象	全般
	参加者数	135人 〔内訳〕広島市50人、呉2人、竹原1人、三原市4人、尾道市2人、福山市5人、三次市3人、東広島市10人、廿日市市2人、安芸高田市4人、府中町2人、海田町1人、安芸太田町2人、北広島町1人、県外1人、居住地不明45人
	内容	「21世紀の家族のかたち—同性婚とパートナーシップ宣誓制度から考える—」「性の多様性と教育—実践への第一歩—」をテーマにした講座
受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：満足度 97.3% 受講者の声：「子どもたちに性の多様性を指導することの意義と大切さを再認識した。」「性の多様性だけでなく、人としての多様性を重要視した社会の構築につながる教育が必要であることと、人を形成する上で性については欠かせない要素であり、誰もがグラデーションの中に位置付けられていることを学んだ。」	

(4) その他 ((1) ~ (3) の複合的なテーマを含む)

① 財団主催事業

高校生向け出前授業	目的	今後の社会を担う高校生が「男女共同参画」について考えるきっかけとし、多様な人々がそれぞれの個性と能力を生かして自立した生活を送り、お互いを理解し尊重することの大切さなどについて学んでもらうことを目的とする。
	対象	高校生
	参加者数	1,562人 〔内訳〕 県立音戸高校 56人, 県立賀茂高校 40人, 進徳女子高校 68人, 県立神辺高校 155人, 県立総合技術高校 228人, 県立戸手高校 650人, 比治山女子高校 195人, ノートルダム清心中学・高校 170人
	内容	・男女共同参画の視点を通して働くことの意味についてや、生理の貧困、女性の働き方やジェンダー平等、LGBT についての授業
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：92.1% 受講者の声：「今まで LGBTQ+ について詳しく学んだことがなく、学べてよかった。他人事のように思っていたが、意外に身近にいるかもしれないということを知った。」「男だから、女だからという考え方を考えることに興味がわいた。」「性について悩んでいた時期もあったので、他の人と違っていてもいいのだと気持ちが楽になった。」

② 共催事業

内容	主催者 (数)	回数	参加者
平和推進	企業等 (3)	3回	332人
女性の政治参画	企業等 (1)	1回	137人

③ 企業等からの受託研修事業

内容	委託者 (数)	回数	参加者
男女共同参画	行政 (1)	1回	14人

2 情報事業

(1) ホームページ等

ホームページ	<p>アクセス件数：100,553件（前年度：103,898件） アクセスの多いページ（HOMEを除く）</p> <p>①施設案内・予約（9,033件） ②相談したい方（6,586件） ③エソール広島の概要（4,883件） ④施設予約状況（3,351件） ⑤講座情報（3,104件） ⑥講座イベント情報（2,538件） ⑦第2回新型コロナウイルス禍が及ぼす影響についてアンケート（1,496件） ⑧LGBTスタディーズ（1,266件） ⑨エソールひろしま大学（1,126件）</p>
フェイスブック	<p>投稿回数：107回（情報数107件）（前年度：163回（情報数172件）） フォロワー数：693人</p> <p>主な配信内容：①研修・イベント情報（財団主催）（52件） ②イベント情報（共催事業）（16件） ③コロナ対策（2件） ④国・県情報（18件） ⑤図書の紹介（4件） ⑥施設情報（21件）</p>
Instagram ※令和3年8月4日開設	<p>投稿回数：39回（情報数39件） フォロワー数：77人</p> <p>主な配信内容：①研修・イベント情報（財団主催）（15件） ②施設情報（11件） ③国・県情報（12件） ④コロナ対策（0件） ⑤図書紹介（2件）</p>
ライン	<p>投稿回数：47回（情報数72件） フォロワー数：53人</p> <p>主な配信内容：①研修・イベント情報（財団主催）（33件） ②施設情報（12件） ③国・県情報（7件） ④コロナ対策（20件） ⑤図書紹介（0件）</p>
メールマガジン	<p>配信回数：43回（情報数154件）（前年度：40回（情報数138件）） 登録者数：1,177人</p> <p>主な配信内容：①研修・イベント情報（財団主催）（49件） ②イベント情報（共催事業）（50件） ③コロナ対策（7件） ④国・県情報（25件） ⑤図書の紹介（4件） ⑥施設情報（16件）</p>

(2) 文献情報等

区 分		保有数	貸出数	
			前年度	
一般図書	女性問題に関する図書、女性の活動を支援する図書	3,637冊	376冊	532冊
行政資料	国・都道府県作成の男女共同参画に関する調査・統計・報告書等	427冊	(館内閲覧)	(館内閲覧)
DVD	女性の生き方を考える国内外の映画・ドキュメンタリー等	29本	0本	3本